

一生勉強 一生感動 一生青春 (第16号)

福井いきいき会新聞

2020年4月発行
発行：福井いきいき会
市中央1-9-29
9：0776-28-6464
発行責任者 吉岡副会長



県庁の桜

会告

新型コロナウイルス感染の防止のため、ホームページと本新聞の発行を除く、当会のすべての活動を5月31日まで中止します。

6月から再開できるかどうかは、役員会で審議し、次号の新聞でお知らせいたします。

福井県の緊急事態宣言による行動の指針に従い新型コロナウイルスの感染防止をお願いします。

新型コロナウイルス

感染拡大の現状

当会が、活動停止を続けている中、当県も、四月下旬には、感染者が百二十名を超え、亡くなられた方も四人になりました。接客を伴う飲食店、飲食を伴う会合、病院などで感染が広がっています。

当会によろず茶屋での活動は、外部との換気ができず、多くの会員が集まって近接で会話が飛び交うという、危険な三密の条件がそろっているうえ、参加者は重症化のリスクの高い高齢者ばかりです。少しでも早く活動を再開したいのですが、五月も無理といった状況が続いています。

今後再開するための条件

いつから再開ができるかといえば、国や県の緊急事態宣言が解除された後ということになるでしょう。しかし再開は慎重の上にも慎重でなくてはなりません。また、その時期が来たときにも、自粛すべき三密の条件を考慮し、リスクの少ないサークルか活動を再開することになるでしょう。

再開の条件は、大野事務局長が起案し、会長、副会長らによる役員会に図って審議の後、当新聞や、ライターの連絡網、ホームページなどで、皆様にお知らせをしたいと考えています。

福井いきいき会新聞は、活動中止中も発行します

号外と第十五号新聞は、住所のわかる会員の方々に郵送いたしました。が、うれしかったとの電話やメールが数多く寄せられました。全活動停止中も、本福井いきいき会新聞は、会員の皆様との絆をつなぐ唯一の手段として、休むことなく発行して行きます。

会員の皆様からの投稿も大歓迎です。

当会が「生き生きシニア活動顕彰」を贈呈される

日本生命財団は「高齢者の地域貢献活動を応援する事業」として題記顕彰を授与する団体を募集していましたが、県知事の推薦を受けた当会に、このほど同財団から同顕彰の贈呈書と顕彰金五万円が送られてきました。本顕彰に恥じないよう、今後も頑張っていきたいと思います。(左は贈呈書)

福井会長から、

会員の皆様へ

当会が高齢者の健康を促進し、教養を高め、会員同士の親睦を深める活動の場です。新型コロナウイルスの感染防止のため活動を停止している現在、当会活動の意義の大きさを実感しておられると思います。言うまでもなく、当会が高齢者の集団ですから、生命を脅かす新型コロナウイルス感染を回避するため、

活動再開に関しては、慎重の上にも慎重に判断しなければなりません。少なくとも、福井県が出している緊急事態宣言が終了するまでは、活動再開をすることはできません。その時期が来た時にでも、すべての活動を一斉に始めることはできず、リスクの少ない活動から順次再開することになると考えています。

当会の役員間で真剣に議論した結果、5月の活動も

全面中止を決断いたしました。活動の再開については、引き続き状況を見ながら、5月後半に役員会をもって判断していきます。

会員の皆様には、この福井いきいき会新聞を郵送する形でお知らせしてまいります。

贈呈書

福井いきいき会駅前よろず茶屋 運営委員会 殿
顕彰内容 生き生きシニア活動顕彰
顕彰金額 金 5 万円
頭書のとおりに貴団体の地域貢献活動を顕彰いたします
本顕彰を契機により一層積極的な地域活動を通じて 真に豊かな地域づくりに貢献されることを期待いたします
2020年4月15日
公益財団法人 日本生命財団 理事長 甲

会員のページ

強烈印象の三氏

会見した政界人

山田 文雄

まだ戦後の臭いの残る東京で大学生活を送った私は故郷へ戻り、昭和三十三年に福井新聞社へ入社した。仕事柄いろいろな人と会い、話を聞く機会が多かった。

その中で最も印象に残っている人をあげよと言われれば、やはり会見当時にもともに政界トップだった中曽根康弘首相と、福田一衆議院議長だろう。さらにモスクワで単独会見をしたゴルバチョフ旧ソ連大統領を加えた三氏が、強烈な印象を感じた人物だった。

昨年十一月に百一歳で死去した中曽根さんについて各紙は「戦後政治の総決算」を揚げ、国鉄民営化を進め、強固な日米関係を築いたと報じた。昭和五十八年の春、その中曽根首相が福田議長誕生日を祝って四月一日に議長公邸の庭で植樹をするという連絡があり、



中曽根首相、福田議長と

当時政経部長だった私は出かけた。

中曽根さんは白梅「白加賀」の幼樹を鎌を振るって植樹。続いて「根回しも見事に晴れの梅植える」と自作の句を披露し、国会運営にあたる福田さんを「根回し上手」とたたえた。

ここで解散となったが、公邸で休憩する中曽根さんを案内しながら福田さんは、私を手招きするので、一緒に応接室におじゃまし、三人だけの休憩となった。

さっそく中曽根さんは先の句に掛けて「私もさんざん風見鶏といわれたので」と話す。福田さんは、「いや政治というものは、

のは、風の方向を知らずにできないですよ」と返し談笑の場となった。

こんなやりとりを聞いて、人脈を大事にしなげらも、いざという時には大きな決断をする政界トップ二人の奥深さを感じた。

故郷の大先輩である福田さんは、その半生を私が執筆し「赤じゅうたん五十年」の表題で出版した経緯もあり、引退後も親しくしていただいた。

次いで、ゴルバチョフ氏に移る。福井新聞社は平成十一年に創刊百周年を迎えるにあたり、大物を招き記念行事をやるという話が持ち上がった。

旧ソ連共産党書記長当時、に東西冷戦終結の立役者を務めた同氏にしばらく交渉役は専務取締役だった私が担った。

あらかじめ共同通信の吉田モスクワ支局長を通じて、会見を申し入れ。一九九八年（平成十年）十二月十五日、厳寒のモスクワへ到着。日程どりで三日間待機して同十八日午後、ゴルバチョフ財団へ向かった。

通訳を介し挨拶に続いて「当社の記念行事にメインとしてお招きしたい」



ゴルバチョフ氏と会見

と言うと「フクオカはノーベル文学賞の大江健三郎氏と行ったことがある」と話す。

「失礼ながら、こちらは福井です」と返すと「おオミステーク」

通訳の語感から間違っていたようだが、ここで緊張感は一気に解けた。九一年に国賓として訪日した際の印象などざっくばらんに話したあと、「来年はオーストラリアから招かれてるので、その前後に立ち寄るよう秘書に検討させる」と前向きな言葉があった。

タス通信のカメラマンが撮る写真にも気軽に応じ、固い握手を交わすこともできた。この間は、

クレムリン内の政争や、西側諸国との駆け引きに関わってきた人物が放つ独特のオーラに圧倒される思いがした。

ところが招請問題は翌九九年二月になって「今年にはベルリンの壁崩壊十周年の関連行事が続くことになり、豪州を含めて日程が取れない。寄稿はする」と連絡が入った。

残念な結果となったが、同十一月九日に記念式典があったブランデンブルグ門前で、ゴルバチョフ氏とブッシュ元米大統領ら東西冷戦締結の主役が揃った報道写真を見てまことに感慨深かった。

また、付け加えるなら、昨年末の中曽根さんの訃報を知って、かつて首脳会談を重ねた八十七歳のゴルバチョフ氏が、即日「傑出したわが友」とのコメントを出したとの報道を見て、なにかしら機縁を感じた。

以上述べた人物は、地方紙ではなかなか単独会見する機会はない。たまにたま私は恵まれたといえようが、長い取材経験の中でもその強烈な印象が残った三氏である。



人生訓

人生は一卷の書物である。

濱田 芳雄

これはベルギー生まれの詩人で小説家であったメーテルリンクの言葉です。人生は一卷の書物である。我々は生まれてから死ぬまで、毎日そのページ、一ページを創作しているのであると言うのが元の言葉です。メーテルリンクは、はじめは法律を勉強していたのですがパリに行つて象徴主義の詩人の仲間に入り、それから有名な「青い鳥」と言う小説を書いてノール文学賞をもらったベルギーを代表する文学者です。この「青い鳥」は誰でも子供の頃に読んで、有名な物語ですが、この青い鳥は幸福のシンボルであり主人公のチルチル、ミチュルがこの青い鳥を求めて世界中をさ

まよい歩くのです。結局捕まえようとすれば果てて諦めて家へ帰つてきたら、逃げ出したはずの青い鳥がちゃんと鳥籠の中に入つて、二人が帰つてくるのを待っていたと言う象徴的な物語です。

これは幸せというものは外にあるのではなく、結局は自分の中にあるものだ、幸せというものは自分の心の持ち方次第で決まるものだと言う事を、この物語は教えてくれているものです。

その意味で青い鳥は、人生の遍歴を象徴する物語になつていくわけですが、実際に人生を一冊の本に、たとえてみると小説のページをめくるごとくにドラマが移り変わつていくように、振り返つてみると本当に有為転変、波乱万丈の小説のようです。その一つ一つの場面で人々は、主人公になつて、泣き、笑い、努力をして、何かを創り上げていくもの、創りあげること、それは人によって違つていしょうが、とにかくその人の努力と心がけ次第で事は確かです。別の人もこう言ってい

ます。「もし読み方を知らなければ人間は読めども、尽きない一卷の本である。またどんな平凡な人の人生も、人を感動させる一卷の小説に書くことができれば」と言つた人もいます。平凡に見える人生も、その中には非常な思いが込められており、深い悲しみ、心からの喜びといったものが織りなされて、ひとつの巻物が出来上がつているといえます。ただその物語は再び繰り返すことができないだけに、一ページ一ページに心を込め、悔いのない創作にしたいことにより、幸福であり生きていて良かったという思いで一生を終えることができたらと思います。

徒然なるままに

羽川 裕美子

私は、北陸新幹線に乗るのを楽しみにして、早く子供みたいですが、早くカッコイイ、世界に誇れる乗り物だと思つています。私自身、仕事や家族に会うため、月に幾度となく県外に出かけます。福井駅から新幹線に乗れるなんて、想像すらできない今、胸が踊ります。しかし今は、コロナの運



び屋にはなりたくないの、出かけることができません。仕事の連絡も、TEL, MAIL, FAXで、月初めの会議も、ZOOMで行つています。でも、今のところこれできてしまふんです。

今まで時間と費用をかけて動き回っていたのは、いったい何だったんだろう。もちろん、会わなければできないこともありますが、いろいろな面で節約できることを、皮肉にもコロナが教えてくれました。コロナが収束したら、世の中の仕組みや仕事が大きく変わるかもしれないですね。でも、私は知らないところに行つて、珍しいものを見たいし、食べたいし、新幹線に乗って出かけると思ひますけどね(笑)。

4月の川柳

川柳同好会

断捨離で 生き方改革

まだ八十路

小林 久子

感動の 緩む涙腺

ビデオ見て

小坂 武士

生きる意義

私も探す 恋の道

齊藤栄三郎

年かさね 気楽な友の

ありがたさ

福井 康人

新型コロナおしゃれ外食

ゼロになり

新田ヨシエ

恨めしや

コロナウイルス

南部 歳子

人恋し ほほえみ

会える日 待ち遠し

松島 成美

コロナ菌

世界の人の

足を止め

濱田 芳雄

コトコトナ 組み

合わせたら君だった

澤村 玲子

味匂い 感じて今日も

ひと安心

吉岡 芳夫

有難い 平凡こそが

平和なり

吉野 廣

認知症 約束やぶる

友悲し

吉田恵美子

幼子も

マスクを付けて

公園へ

上坂 征夫

いきいき会のサークル活動の報告

5月のサークル活動が全部中止になりましたので、ここでは、これまで行われてきたサークル活動を少し詳しく紹介することにしました。

シニアチャレンジ

応援事業を受託

合唱サークル主宰

小林 久子

合唱サークルは、昨年十月、福井県長寿福祉課が募集した「シニアチャレンジ応援事業」に応募した結果、無事採択され、念願だったキーボード等を購入することができました。

何しろこの応援事業に応募することは、急に降って沸いたような私には予期しない出来事でしたが、会長の勧めでお断りの言葉も出せぬまま、チャレンジ応援事業への応募を申請することになりました。大至急で第一案と第二案を作り、十月十五日「杉本知事と語る会」の終了後、福井会長とともに県庁福祉長寿課へ出向

き、申請書を提出しました。一週間後に、福祉課藤田氏より、申請書通過の知らせがありました。福井会長と濱田さんが大変喜んで下さいました。支給された助成金を使って「合唱サークル」は、伴奏と指導を和田先生に依頼、念願だったキーボードも購入することができました。会員は二十名を確保



合唱サークルの練習風景

楽譜の印刷は濱本さんが手伝ってくださいました。私は右往左往しながらいろんなこと学び、少し先が見えてきたところでやっと我に返ったようでした。

私は、チャレンジ目標を対外的な発表にしたいと考えましたので、まず新年会で発表することと、木田公民館木田大学閉会式のオープニングで披露することに決めました。新年会で唄う曲として、「人を恋つる歌」

「青い山脈」「野に咲く花のように」を選曲しました。和田先生は、皆さんの音声に合わせて伴奏してくださいるので、気持ちよく練習できたと思います。その結果、いきいき会の新年会や、木田大学閉校式では、元氣はつらつと発表ができ、みんなでチャレンジの成果を喜びあいました。助成金ではさらに「美しき日本の歌」の本を購入することもできました。三月二日(月)はチャレンジ五回目の最後の日でしたが、コロナウイルス感染防止のため他サークルが中止になる中、どうしても合唱サークルの開催を



合唱サークルのメンバー

の活動」使用したN20、N24の楽譜、写真および福井いきいき会の新聞などを揃え、チャレンジの結果を長寿課の藤田氏にお届けすることができました。藤田氏の温かいアドバイスに感謝です。

今後は、七月四日にアotts 1Fのアトリウムで開催予定の第三十一回「童謡の日さわやかコンサート」に参加する計画でしたが、今年には中止になるとの連絡があり、残念です。何もかも止まった状態の中で充電だけは怠らず、再開の日を待ちたいと思います。

『断じて行えば鬼神も之を避く』山本五十六元帥のかなり古い言葉ですが、信念を貫きたいと思っています。

合唱サークルのメンバーは、以下の通りです。

- (敬称略) 大野勉、折尾敏和、竹内駿男、林豊二、竹内貫、小坂武士、福井康人、上坂征夫、定池徳誠、濱田芳雄、濱本たけ子、橋本小夜子、吉田美恵子、小垣内悦子、帰山貞子、木下美紀、木下良子、小林久子、齋藤栄三郎、寺岡博文、笠原京子、天田始宏、山田文雄

しようと、私の心は鬼になりました。そして、十二名の参加を得て、計画した最後のチャレンジを終えることができました。私を支えてくださった皆様のおかげだと思っています。濱田さんから「どうでしたか」と温かい配慮の電話があった時には、思わず熱くなってしまういました。

三月十七日には、「会計報告」「活動報告」「今後